

日本聖公会 神戸教区報

# 神のおとずれ

2012年  
9月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
http://www.nskk.org/kobe/

発行責任者  
司祭 芳我 秀一

印刷所  
文明堂印刷所

## 響く教会

司祭 パウロ 竹内 宗

「子どもたちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。」  
(マルコ10:14)

マルコによる福音書によれば、子どもたちの祝福を願って主イエスに近づいた人々を、弟子たちは、すぐさま叱りました。その背景には、当時、子どもは律法を知らない存在として、罪人とまでは言わないうが、それと同じような扱いを受けていたと言います。しかし、主イエスにとってそんなことは関係ない。神の祝福は、ユダヤ教宗教指導者たちが言う、律法を知り、これを守れる、という条件をもつ

て与えられるのではないことを明らかにしています。

さて、このみ言葉を聞くところではないかもしれないが、どうしても子どもたちに対する教会のあり方、そして日曜学校について考えさせられます。

前任の司祭から徳山を引き継いだ時、緊張感をもってあった事は、日曜学校の運営でした。なぜなら、十数年お休みしていた日曜学校が、復活していたからです。

あれから6年、在籍生徒数は9名から46名に、教師6名、毎月2回の主日礼拝を守っています。まだまだ発展途上にある日曜学校ですが、ここま

で息を吹き返したのにはそれなりの理由があるようです。それは一重に私の努力の賜物である…と、言いたいところですが、全くそうではありません。もちろん神様のお助け



徳山聖マリア教会日曜学校聖歌隊

によるところですが、それと同時に、教会メンバーの意識が少しずつ変化し、協力体制が整っていったからではないかと考えられます。

「明日の教会に希望を与える

のは、信仰を受け継いでくれる子どもたち！」と言う意識をもって、小さな事から取り組みました。

まずは、主日礼拝を守ることも、教師たちで礼拝を守ることも、教師たちが拙速な信

徒獲得のための活動という意識を無くしました。つまり日曜学校は純然たる種まきであると考え、10年後、20年後、いや50年後に咲く花だと考えています。

意識の変化は外からも始まりました。教師会では、保護者の理解と協力を得られるよう、コミュニケーションを取ることに心を配りました。すると、少しずつ保護者の方々にも礼拝出席していただけるようになり、主日合同礼拝、キャンプ、バーベキュー、遠

足など、生徒と共に保護者・家族が参加できる行事が企画されました。実に「このような賑わいが教会を元気にする」と言う意識がめばえると、教会全体が変化してゆきます。

か。

婦人会は、クリスマス、イースター、ペンテコステの大礼拝に向けて日曜学校聖歌隊が結成されると、祭服を作ってプレゼント。着る方も、着せる方も大きな喜びに包まれます。教会委員会の意識も変化しました。

宣教費、日曜学校費が増加してゆき、力の入れどころが変わります。地域との連携も大切です。特に、徳山めぐみ幼稚園卒園児の日曜学校定着が、大きな力を与えています。

教会内アンケートの結果から、当教会日曜学校出身者、他教会・他教派日曜学校出身者は、現在受聖餐者の30%を超えていることが分かりました。やはり、それだけ日曜学校の働きは大切なものなのです。

最後に、ある信徒の言葉を投げかけたいと思います。「たくさんのこどもの声が響く教会にしたい」。とてもシンプルなお祈りであるが、今、多くの教会に必要とされている祈りではないでしょうか。

(徳山聖マリア教会牧師・下関聖フランシス・ザビエル教会管理牧師)

# 広島平和礼拝2012を終えて

広島平和礼拝 実行委員  
フランチェスコ 河原 和則

毎年「広島平和礼拝」のためにお祈りとご協力をいただき感謝いたします。と共に、今年も「広島平和礼拝」の開催をお赦しください、私たちをお導き下さった神様に感謝をお捧げいたします。

いきました。参加した若者達も、真実の迫力に大きな衝撃を受けたらうと思います。

次に、神戸教区の若者3名(池澤 隆輝さん・米田 智範さん・岩井 愛実さん)が、これまでに平和礼拝に参加し、「平和の実現」について考えた主張と問題提起を、それぞれの立場から語ってくださいました。その後の「分かち合い」の中でも、同世代の若者の意見・感想が多く出て大変有意義な時間でした。

翌日6日、朝8時からの「原爆犠牲者追悼聖餐式」の説教で、



## 8月6日(月) 原爆犠牲者追悼聖餐式

午前8時からの原爆犠牲者追悼聖餐式には、約70名が参列し、原爆投下時刻の8時15分に黙祷を行いながら、中村主教司式、平和礼拝実行委員聖職の補式、そして五十嵐九州教区主教の説教によって行われました。

老人問題、雇用と核エネルギー利用の問題。対外的には東アジアの国々との国際問題など、たくさんさんの不安と閉塞感があり、決して「平和」ではないでしょう。

今こそ、私たちキリスト者は連帯し、「神の愛と平和」を宣言しなければならぬと感じます。

来年は9回目。再来年は10回目であり、被爆70年目の節目を迎えます。実行委員会もそれを思いながら、小さな働きのうち

に、新しく「一歩前へ」。

(広島復活教会信徒)

## 若い世代が平和を伝える大切さ

米田 智範

米田 智範

今年の「広島平和旅考」では、8月5日、日本聖公会広島復活教会において行われた広島平和礼拝の一環として行われているお話し会において、『広島平和旅考と広島平和礼拝』という題でお話させて頂きました。

その中で私は、我々日本の若い世代に、世界唯一の被爆国の国民として、平和と核兵器廃絶のメッセージを世界に発信していく責任があること、国家や人間が、互いに赦しあうことが、平和と核兵器廃絶に繋がると思っていること、若い世代が、平和のメッセージを発信する役目を受け継がなければならないことなどをお話させて頂きました。

そして、お話し会終了後に高齢の参加者の方から、「若い方々が平和について真剣に考えて下さっていることが分かって良かった」などとお声をかけて頂きました。

今年の広島平和旅考では、私の平和に対する考えや、広島で与えられた思いを、広島ので多くの方々に伝えることが出来たのが良かったと思っております。

これからは、我々若い世代の平和に対する考えを、多くの人々に伝えることが必要であると思わされました。

今年のお話し会を契機に、来年からのお話し会に、平和のメッセージを発信する立場で、若い世代が積極的に参加するようにならばと思つた旅でした。

(神戸国際大学学生)



「戦争の話」と題して話される安部早苗姉

今回、教区内外から約120名の人々が広島復活教会に集い、初日5日は、メインプログラムとして、戦争と平和を聴く「お話し会」を開催しました。はじめに、広島復活教会信徒の安部早苗さん(81歳・当時14歳)が「戦争の話」と題して、安部さんが目撃された凄惨な被爆者のお話と、その後起こった惨状を、涙のうちに話してください



## 8月5日(日) 商店街を進む平和行進

カトリックと合同の平和公園での祈りの集い、平和行進、そして世界平和記念聖堂にての平和ミサには、聖公会から約70名が参加し、祈りの集いでのメッセージ、平和ミサでの終わりの挨拶は中村教区主教がされました。

五十嵐主教様(九州教区)が語られた「人間は、放っておくと必ず争い戦うもの。だからこそ、繰り返し平和について考え続け、その考えを更新しなければならぬのです。」というお言葉に、今さらの様に目を開か

れた思いでした。私たちが平和礼拝実行委員会の「次の方向性」に示唆を頂いたように思いました。

日本は今、現実の戦争はしていませんが、国内に目を向ければ、子どものいじめ問題、年間約3万人の自死者、貧困や独居



# 東日本大震災関連情報

## 変わりゆく町が

### 求めるもの

リチャード 池澤 隆輝

7月の第二週の平日の間、福島県小名浜聖テモテボランティアセンター(以下VC)に滞在しました。

7月より、富岡町の方々が住まいの泉玉露仮設住宅での「ほっこりカフェ」は、住民の方々自らの手で開催され、聖テモテVCは後援という形で関わることになりました。「カフェ」の開始は昨年の10月。一年も経たない内に、住民の方々の手で自立した活動ができるようになって



7月12日(木) 渡辺町昼野仮設住宅の方々による七夕の飾り作り。

たことを、調整員の木村司祭は感慨深く、驚きの目線で見つめておられました。同仮設住宅の自治会活動は益々盛んになり、掲示板に載せられている予定表は、毎日午前午後ともお仕事会やレクリエーション、講演会等のスケジュールで一杯です。これも今年の年初に私が滞在した時には見られなかった状況です。一方、1月より関係作りを始めた、大熊町の方々がお住まいの渡辺町昼野仮設住宅では、引き続き聖テモテVCがカフェを提供し、相談を伺う活動が続けられています。しかしここでも、カフェ参加者の方々が思い思いにおやつ、おつまみ(中には手作りも!)をお持ち下さるなど、一方的でない関わりのかたちが自然と生まれています。

半年ぶりに仮設住宅の集会所を訪ねたとき、私が聞いたのは、住民の方々からの「おかえり」の言葉でした。それは友人を迎えるかのように響きました。震災より一年を経過した今でも、むしろ今だからこそ、絶えることのない関わりの中に、友人として寄り添うことが必要なのです。

(神戸教区聖職候補生)

# 広島復活教会 宣教協議会

教区宣教委員

マーガレット 広瀬 康 恵

昨年7月18日に教区で開催された宣教協議会で使用したワークシートを、河原和則兄に広島復活教会パージョンに編集したものを作って頂き、1月の総会資料とともに配布、3月末を締め切りにし、その後、集計したものを作成し、再度配布いたしました。

集計した資料をもとに、5月27日(日)に第一回宣教協議会を開催。参加者21名でした。2つのグループに分かれ、グループディスカッションを行いました。午後1時から3時の間に、各グループごとにビジョン3、4つ、アクションプランを5つくらいを出す予定でしたが、時間がなく、ビジョンのみ3つ出すだけになりました。

6月24日(日)に第二回宣教協議会を開催。参加者28名でした。3つのグループに分かれ、アクションプランを話し合いました。アクションプランとして、すぐに行うことができるものもありました。

※今回、宣教協議会に参加して下さった方に、ワークシート



グループに分かれてディスカッション

を使用したことについて、意見を頂きました。初めてワークシートを見たとき、質問の多さ、質問の意味の難しさになかなかやる気になりませんでした。ワークシートを作った方が、ワークシートを思うと、ちゃんと答えを提出しないとイケないと思えました。

・今まで、教会のことを自分なりに考えて使いましたが、ワークシートを使用して、教会の近隣の人や教会から遠ざかっている方の立場にたって考えることで、今、自分が出来る

ことは何かを考えることが出来ました。

※今回の宣教協議会に参加した感想を頂きました。

ワークシートは提出しましたが、参加しても良いものかと少し迷いましたが、参加して、教会のこれからのことをいろいろと意見交換が出来、とても良かったです。宣教協議会という、名前がよくないのでないでしょうか。

・若い方とこれからの教会について話ができて、とても楽しかったです。次回もあんなら、参加したいです。(沢山のご意見、ご感想を頂きましたが、抜粋して、掲載させ頂きました。)

宣教協議会を開催したことで、教会目標という遠くにあったものが、もっと身近に、一人ひとりが、今、自分に何が出来るのかを考え、行動していこうという意欲になったように、感じました。

来年1月に行われる受聖餐者総会に、2016年を目標に教会のビジョンと活動を議案として提出するために、もう少し協議会を開催する予定です。

(広島復活教会信徒)

自己紹介

ウィリアムス神学館1年生

パウロ 歳 實 勲



神戸教区神学生として、この4月からウィリアムス神学館で学ぶ機会を与えて頂きました。生まれは、広島県南部の町です。母教会は広島復活教会です。小学生の頃からカープファンです。学生時代はボート部の選手として活動しました。その後、私大職員として35年間勤務し、その傍らボート競技の普及・振

興の仕事にも携わっていました。そして現在の年齢は57歳と、随分と回り道をしてきたものと思えます。私が神学館へ入学を志願したのは、これから60歳までの3年間で神さまにお仕えるための重要な期間であると考えた末のことでした。これまでは、仕事と自分、そして家族を中心とした生活でした。しかし、ここでは神様を中心とした生活です。神学生が共同生活をしながら神学を学ぶという姿勢が貫かれています。 やっと1学期が終わりました。年齢によるものか、何かにつけ適応能力に陰りを感じる日々でした。これを克服するための工夫と健康管理の大切さが身に染みて分った期間でもありました。

この学びの中で、「過去の自分を脱ぎ捨てること」が自分の課題であると思えました。言い換えば、「自分がどのように生まれ変わらせて頂くのか」ということでしょうか。この気付きが、この1学期での大きな恵みであったように思います。そして神さまとの出会いを素直に感じ取れる自分でありたいと日々励んでいます。主に感謝。

鳩だより 《敬称略》

祝 受 洗

7月17日(火) マリア 足立 登美代 境復活教会

7月15日(日) ルーカス 市川 巧

7月22日(日) ベタニヤのマリア 松本 司

7月29日(日) 明石聖マリア・マゲダレン教会

7月29日(日) パウロ 林 献太郎

7月29日(日) 倉敷聖クリストファー教会

7月29日(日) テレーザ 秋山 まゆみ

7月29日(日) 広島復活教会

祝 堅 信

6月17日(日) ペテロ 中原 綾 真 徳島インマヌエル教会

7月22日(日) ベタニヤのマリア 松本 司

7月22日(日) 明石聖マリア・マゲダレン教会

7月16日(月) ルーカ 佐々木豊治(63歳) 広島復活教会

ご 逝 去

7月25日(水) 岡田 茂(96歳) 徳島聖テモテ教会

6月17日(日) モニカ 村瀬 祥子 松江キリスト教会から 徳山聖マリア教会へ

教 籍 移 動

山陰伝道区

◎米子聖ニコラス教会

7月23日(月)、24日(火)の両日、米子聖ニコラス教会の子ども教会学校のキャンプが、大山の松蔭ロッジにて、子ども27名、大人22名で行われました。参加した子どもは多くは幼稚園児でしたが、たくましく過ごすことができました。

23日は、カレー作りに挑戦し、夜は恒例の花火とキャンドルサーブスをして素晴らしい思い出を作りました。

作りました。24日は礼拝の後、川遊びを楽しみ、自分たちで作ったおにぎりやスイカを食べて、楽しかったキャンプを終えました。

広島伝道区

◎伝道区日曜学校キャンプ

7月30日(月)から31日(火)までの間、広島市のYMCAコンフォレスト湯来(みのち学芸荘)を会場に、広島伝道区内の教会からスタッフと参加者合わせて約40名が参加して開催されました。キャンプでは、川遊びやスイカ割りをしたり、キャンプファイアーをしたり、また夏休みの工作として万華鏡を作ったりして、とても有意義で、楽しい時間を過ごしました。

10月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2012年10月11日(木) 午前10:30  
場所 神戸聖ミカエル大聖堂  
司教 中村 豊智  
主祭 八代 智  
説教 \*10月の記念逝去教役者\*

1日	宣教師	キャサリン・M	シエパード	ド枝
1日	宣教師	ヨハンナ	三浦	重男
5日	宣教師	ミカエル	岡田	七郎
7日	宣教師	ノア	津島	昌憲
7日	宣教師	ヨネン	牛島	悠
8日	宣教師	オールド	坂下	文吾
9日	宣教師	ホルミ	弘吉	助二
10日	宣教師	パウル	野合	隆己
14日	宣教師	アントン	河嶋	武良
14日	宣教師	ハロルド	松井	光
16日	宣教師	サムエル	三浦	典久
21日	宣教師	オーガスタ	岡上	与
21日	宣教師	ルナ	藤加	泰一
24日	宣教師	バルナバ	長	三
29日	宣教師			
31日	宣教師			



広島伝道区日曜学校キャンプ